

野球ボール 再生お任せ

宇治の障害者就労支援NPO法人

障害者の就労を支援する宇治市のNPO法人が、ポロポロになった使用済みの野球ボールの再生に取り組んでいる。球児らに道具を大切にすることを考え、もらい、障害がある人の自立も支援する事業として注目されている。

(原知恵子)



ボールを糸で縫う利用者ら＝宇治市

月1000球超、元プロ選手仲立ち



再生されたボール

土が染みこんで茶色くなった古いボールが机のうえにすらり、破れた革が、一つひとつ、縫い合わされていく。作業に従事する男性は「まだまだ使えます。すぐ直りますよ」と笑顔で話した。

同市小倉町若木のマッシュンの一室にあるNPO法人「就労ネット」じ、みつくすはあつこ。知的障害などがある10、10歳代の男女8人が利用し、食料品の製造や販売、清掃などを進めて、自立を目指している。ボールの再生もその一環だ。

名付けて「エコボール」。1球あたり60円で修繕を請け負う。再生によりボールの寿命は3～4倍程度になる。新品は4

00～500円程度ながら、無償だ。1時限で15球程度を仕上げ、700円以上の報酬を得る利用者もいる。

関西ベイスターズなど、投手として活躍し、現在はコンサルティング業を営む大門和彦さん(46)が、社会貢献を考えた(2)で知り合った同NPO法人代表者的小畑浩幸さん(44)に提案。大門さんが東京学芸大学野球部に所属した時、部長たちで修繕しながら使った経験を生かしたのだ。

去年9月に再生事業を始めた。現在、京都や大阪の高校や大学計6校の野球部から依頼があり、月の修理数は1千球を越えている。今夏は、再生ボールを使用している京都府立総合高等学校(宇治市)が全国高校野球選手権京都大会で決勝に進出し、利用者を誇りにさせた。

同市内のスポーツ用品店が無償で糸と糸の提供を申し出るなど反響も広がる。小畑さんは「就労支援につながっているほか、地域社会とのつながりが深まった」ともうれし」と話す。

同NPO法人では、活動への協賛金(団体1口3千円、個人1口1千円)を受け付けている。問い合わせは「就労ネット」(074-231-7700)へ。